

[解答に至る考え方や途中式を採点する。答えのみでは点を与えない。]

問題 1 地上から角度 θ で斜めに初速度 v_0 で、質量 m の物体を発射する。重力加速度を g とし、質量 m の物体には重力 mg が鉛直下向きに働くとする。空気抵抗の影響は無視する。

このとき、水平到達距離を最大にする発射角度 θ を求めよ。ただし、運動方程式を立ててそれを積分することにより求めよ。公式を導出なしに用いている場合には、途中式として加点しない。

問題 2 地上の高い地点から質量 m のボールを時刻 $t = 0$ にそっと放し、落下させる。重力加速度を g とし、ボールには重力 mg が鉛直下向きに働くとする。

(2-1) 空気抵抗がないとき、時刻 t におけるボールの速度 $v(t)$ を求め、そのグラフを描け。

(2-2) 速度に比例する抵抗力を受けるとき (比例定数を γ とする)、時刻 t におけるボールの速度 $v(t)$ を求め、そのグラフを描け。

(2-3) これらのグラフの違いについて、説明せよ。

問題 3 糸の先におもりをつけ、他端を天井に固定して吊るす。糸を張ったまま斜めにおもりを少し持ち上げ、そっと手を放す。振り子の振り幅が十分小さいとき、振り子の運動は単振動になることを示し、振動の周期を求めよ。

問題 4 3次元空間内に、2つの電荷 q と $4q$ が距離 l だけ離れて置かれている。さらに、第三の電荷 q' を置いたら、全ての電荷に働く力が打ち消しあった。電荷 q' と、それを置いた場所を求めよ。

問題 5 z 軸に沿って線密度 ρ の線電荷が、 $-\infty < z < \infty$ に一様に分布している。以下の異なる方法で、点 $(a, 0, 0)$ における電場を求めよ。

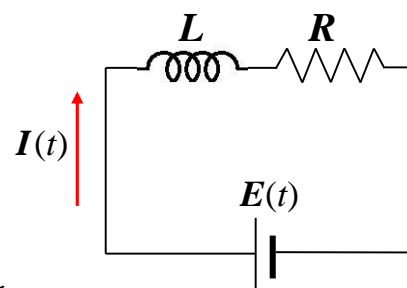
(5-1) 線電荷の微小部分 $z \sim z + dz$ が点 $(a, 0, 0)$ に作る電場を求め、それを $-\infty < z < \infty$ で重ね合わせることによって、線電荷全体が作る電場を求めよ。

(5-2) ガウスの法則によって直接電場を求めよ。

(5-3) これらの計算方法の相違点、利点について考察せよ。

問題 6 自己インダクタンス L のコイルと抵抗 R を直列につないだ回路に、時刻 t における起電力が $E(t)$ で与えられる電源をつなぐ。

時刻 t にこの回路に流れる電流を図の向きに $I(t)$ とする。最初、電源はオフになっており、 $t < 0$ では $E(t) = I(t) = 0$ とする。時刻 $t = 0$ に電源をオンにして起電力 V (=定数) を与えた。



(6-1) $L = 0$ のとき、 $I(t)$ のグラフを描け。

(6-2) $L > 0$ のとき、 $I(t)$ を求め、そのグラフを描け。

(6-3) これらのグラフの違いについて、説明せよ。